

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1072000381		
法人名	有限会社 粕川カトレアホーム		
事業所名	グループホーム 粕川カトレアホーム		
所在地	前橋市粕川町深津1144-2		
自己評価作成日	2021/11/8	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和3年11月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設からは赤城山が一望でき、その自然環境は豊かで、散歩の折々に四季を感じる事が出来る。食堂にはピアノがあり、演奏に合わせて唄う事で発声や口腔体操を兼ねている。また、庭続きの畑には数種類の野菜を栽培しており、収穫を行って食卓にのせる事が楽しみなっている。  
 利用者様一人ひとりの残存機能の維持、低下防止が出来るような様々な取り組みをしている。一例を挙げれば「ちぎり絵」があり、手先の運動、思考力の維持・向上に役立っている。その作品は極めて完成度の高いものもあり、大作も多い。更に、嘱託医・ご家族との連携により、終末期のケアも行っている。利用者様の体調管理は元より、人としての尊厳と生きる喜びを持ち続けて楽しく、潤いのある毎日を送っていただきたいと私達は考え、日々の生活を共にしている。当ホームの理念である「愛ある介護」・「誠実な介護」の実践に取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

理念である「愛ある介護」、基本方針の「地域との連携」の実現に向け、家庭的雰囲気のもとに、入居者の特技や趣味が日常に反映できるよう、個々の尊厳を意識しながらケアに取り組んでいる。加えて施設長が該当地域の出身であるという地縁により、地域住民との信頼関係の構築につなげている。その関係性を基礎として、運営推進会議のメンバーにも地域住民が2年交代で加わってもらう仕組みが作られており、グループホームという事業所の特徴や認知症に関する勉強の機会の提供などが継続して実施されている。そうしたつながりから、地域住民から旬の野菜を頂戴するなどの交流を通じて、より季節感豊かな食事提供等に活かされている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員との会議において、ホームの理念(愛ある介護他)基本方針(地域との連携他)に基づいた介護計画を立てている 常に管理者と職員が理念や基本方針を共有し、介護支援に活かしている	入居者への声かけの仕方・気をつけるべき点を、理念の意義と一緒に、職員と考えるようにしている。また、新人研修の際には、理念・基本方針を説明し共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板等を通して町内の情報を把握している 地域の道路愛護活動にも参加している 老人会の資源回収に協力して古誌や段ボールを提供している 近隣の方より、野菜の苗や旬の野菜をいろいろといただく事が多くある	施設長が地元出身であるという馴染みの関係を活かし、野菜を頂戴するなどの交流や地域住民の運営推進会議への参加等、事業所の内容や認知症についての理解促進の機会が作られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所希望者の来所、また入所の目処が立たない方、老後への不安等の電話での相談も受けるが常に誠実に対応している 相談内容によってはアドバイスもしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため運営推進会議を行う事は出来ていない。以前の会議の席上で出席者より、このような会議に参加して、施設の取り組みなどを知ることが出来、勉強になったとの意見があった。感染状況を見て早急な開催にむけて準備を整えている。	地区役員、地域住民、入居者・家族、市職員で、2ヶ月に1度会議を開催している。ホームの現状や行事について話し合う等、認知症への理解に努めている。現在は、コロナ禍で中止の為、日常の様子をお便り通信として配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「災害時の高齢者支援について」の地域で行われている研修会に参加している この度の新型コロナウイルス感染防止についての情報・取り組みに対しては行政から指導を受け、それに沿って行っている 利用者と職員の健康状態をチェックし、それを報告することを実践している	市主催の地区の防災への取り組み、災害時の高齢者支援の研修会に参加している。生活保護など書類の不明点についてメールで助言をもらう等、日頃からの連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を立ち上げて、身体拘束の対象となる具体的な行為とそれによってもたらす弊害について研修する機会をつくり、理解するよう努力している 玄関の施錠も含め、基本的には施錠していない 利用者の生命、又は身体を保護する為緊急やむをえない場合は家族に説明し、了解を得て期間を決めて行う事がある	拘束マニュアルに基づいて、その都度、関係者が話し合う場を設けている。送りノートに拘束や虐待についての考え方を記載し、周知・共有に努めている。最近、適正化委員会を立ち上げ、日々の取り組みについて研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内において利用者が不適切な扱いにより権利を侵害される状態や生命・健康・生活が損なわれる状態に置かれることのないよう(身体的虐待・心理的虐待)常に注意を払い防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用者の保佐人に対して必要に応じて連絡を取り合ったり、書類等の送付を行って利用者の近況等を知らせ、関係性を構築している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は入所時に家族や本人に契約に関する詳細な説明を十分に行い、納得理解していただいた上で、必要な項目にサインをいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日頃の何気ない会話より希望や意見を聞く事がある 家族より入所時や来所時に要望等を伺うように努めている 気軽に話せる雰囲気づくりを行っているが、意見箱の設置や国保連合会の相談窓口の説明もしている	毎月の利用料が現金支払いのため、家族との面会・交流の機会を意図的に設定して、要望を聞いている。コロナ禍での法要における外出について質問(要望)があり、職員で話し合い対応をしたこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ショートカンファレンスを行っている その時点での利用者の課題等、意見交換を行い、問題の解決に繋げている	コロナ禍での換気の仕方、食事介助を必要とする方が増えたことによる職員のお昼休憩の取り方、不穏な場合の対応あり方等、月・木・土曜の15分の会議において話し合い、職員全員が意見交換できるように工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務形態に関しては、事前に希望を聞き入れている 又、日勤の勤務も一人に過重な負担とならぬよう配分している 職員の良いところは認め、向上心や誇りを持てるように配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に勉強会やデモンストレーションを行い、必要な知識・技術の習得と向上を目指している 特に新人の場合は、ケアに対しアドバイスを欠かさず、質の高い人材となるよう育成に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との情報交換は施設見学や電話、施設の通信等を送付等して交流している また、研修等で同席した他事業所の職員とも交流し、サービスの質の向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族との話し合いには時間をかけ、要望・希望・その他耳を傾けている 本人の望む介護を優先し不安解消に努め、信頼関係を早期に築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望・不安なこと等にも、最初の話し合いの場で時間をかけ、耳を傾ける事により信頼関係が築けるよう努めている 又、電話での対応も、誠実・丁寧を心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との話し合いの場や、情報の中でどのような支援が必要なのかを把握し、対応している 医療的対応が必要な場合は、提携病院があり速やかに対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常を共にする事で、本人の出来る事・出来ない事等を見極めることに努め、本人が迷う時、出来ない時にはさりげなく手を貸す等の支援している 清掃や食事時等、楽しみながら生活を共にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止の為、面会は思うように出来ないがカトリア通信を発行したり、生活状況・介護報告書を送付したりして利用者の状況を伝え、家族と共有しともに本人を支え合う関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、キーパーソン以外の方との面会は極力控えていただくと共に外出は中止としている みなさんこの状況を理解していただけている	感染症に配慮しながら、定期的に兄弟との面会や電話での対応等、継続した関係性の維持に取り組んでいる。コロナ禍により現在は出来ないが、以前は、墓参り等の移動支援を継続的に実施できるよう努めていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時・お茶の時間・その他、日常的に目配りを欠かさず、利用者同士の関係を把握するよう努めている 声かけ・テーブルの着席位置などを気配りする事により、より良い雰囲気作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所した後も、問合わせや相談等には、入所時と変わる事なく誠意を持って取り組んでいる		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各人の持っている特技や趣味を最大限に発揮できるよう取り組んでいる 歌や楽器などはお茶の時間などに披露してもらい、俳句・ちぎり絵なども支援し、自信・誇りを持つ事につなげ、共に楽しんでいる	日常会話の中で、縫物が好きな方・歌が好きな方など、趣味・特技について利用者理解を深めるとともにそれらを活用し、入居者の自信や生きがいに繋がるよう支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人への聞き取り・意向・家族への聞き取り等、時間を充分にかけ一人ひとりの全体像を把握する事に努め、ホームでの生活がより快適なものとなるよう力を注いでいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	絶えず日常生活に気配り・目配りする事により、現在の状況をよりの確に把握することに努め、より良い介護・支援に活かせるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフとの話し合い・申し送りは、朝夕毎日行っており、本人に適した介護・支援に努めている 家族や他関係者との情報交換も密にしている 又、モニタリングを行い、現状に即した介護計画の立案をしている	各職員が入居者1~2名を担当し、介護計画の把握やモニタリングへの職員参画、ケアマネジャーとの連携のもとに日々のケアに取り組んでいる。 モニタリングでは短期目標の評価を家族と一緒にを行い、ケア会議を経て、その人に応じた介護計画の作成と実施につなげている。	介護計画への理解のもとに日々の実践、また記録の作成ができるような工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り・カンファレンス・個人の介護記録等、全てを記録に残し支援に役立て、又、職員間で情報を共有する事により、介護計画の見直しが出来、より良い介護が出来ている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が、その家族と共に行ってた事が出来なくなった場合(墓参り・買物・その他)施設が代わって支援している 介護以外の事でも、本人が希望した場合は出来る限り叶えられるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他施設のケアマネージャーや地域包括支援センターの方との情報交換を行う 又、地域と交流することで地域住民の方々に利用者を認識して頂いたり、緊急時には協力して頂けるように依頼している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでの嘱託医として、協力医療機関があるが入所時に本人・家族が他の医療機関を希望すれば、そこをかかりつけ医としている ワクチン接種時も嘱託医の来所により馴染の場所で安心して接種してもらうことができる	現在は、本人及び家族の希望によりすべての入居者が、ホームの協力医を利用している。看護職員が定期受診に同行し、緊急時も治療方針含め家族と連絡を取り合いながら、ホームで受診対応に努めている。他科も同様に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームは、看護師5名が勤務しており、必要に応じて対応している 又、職員に対し、看護師が情報の提供・技術支援を常に行い、介護の向上を目指している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に入院した場合も、安心して治療出来るよう必要に応じて訪問している。又、病院と情報交換し、本人の状態の把握に努め、施設での受け入れについても医師、看護師との連携に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し終末期に入った場合でも、病院でなく施設を希望する方も多い その場合はこれまでの本人の意向や家族の要望を伺い、それに添えるようにしている 終末期の対応はマニュアル化し、状態の変化に対処できるようにしている 2020度は5名の看取りを行った	入居時に、看取りに関する説明と要望の確認をしている。状態変化時には家族とともに職員が協力医療機関の説明を聞き、皆の合意により方針を決めて対応している。看取り時は、通常の夜勤者の他に看護師も宿直して、点滴含めた対応を行っている。	書類整備を実施することで、さらなるステップを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルの作成、利用者の状態から発生しやすい事故(窒息・転倒など)に対する応急手当や対応は常に徹底している 日頃から対応の勉強会をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は2020.7.9. 2020.12.1.(防災設備会社の指導により行う) 2021.10.14(地震を想定) コロナ禍で地域の消防署の立ち入り検査は延期となっているが、防災設備会社の年2回の点検を実施すると共に職員は交代で避難訓練に参加している	水消火器を使用した訓練、地震時にテーブル下に隠れる訓練等を実施し、様子を記録として写真に残している。水・乾パン含め3日分を備蓄している。コロナ禍により(消防署の指導により)、消防署立ち合いの訓練は休止中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活を通し、一人ひとりの性格・人柄の把握に努め、相手を認め常に人格を損ねないよう会話等に気配りしている プライバシーに関しては、知り得た情報は外部に漏らさないよう配慮している	人生の先輩として利用者から学ぶ姿勢を意識して、丁寧な言葉使いやプライドを傷つけないように注意している。対応に際して疑問や気になることがある時は、全職員で一緒に考え、互いに注意をするようにしている。個人情報の書類などは保護の観点から、人の目につかない場所に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話・仕草などを通じ、本人の思いや希望をくみ取るよう努力している 又、会話が不自由な方は眼の動き・動作などから要望をくみ取っている 如何なる時も相手の立場を考えて本人の希望に添えるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝夕のスタッフとの話し合い・報告を活かし、一人ひとりの気持ち・体調にあった介護支援をする事により、日々の暮らしが心地良いものとなるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みや季節に即した服装を心掛けている 耳・爪・髪の手入れも常に気配りし、清潔感にあふれた身だしなみに努め、必要に応じ化粧もしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	肉類を食べられない利用者にはそれに代わる食品を提供し、安心して食事が出来るように配慮している 料理の下ごしらえや皮むき、選別、月見のお団子・餃子作りを利用者と職員と一緒にやっている	好き嫌いの把握、また塩分・糖分控えめを心がけ、近所でいただいた野菜中心の料理を提供している。取り組みが可能な利用者には、皮むきの手伝いをお願いしたり、行事食として、鰻など好きな料理や弁当を買って、気分転換も兼ねて庭先で食べ楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに対応し、普通食・きざみ食・ミキサー食等に行っている なるべく素材の持つ味・バラエティーに富んだ献立・季節感も楽しんでいただけるよう努めている 水分量も一人ひとりに対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり合った介助を徹底している。口腔状態は健康に関係するため、特に気を遣い徹底して清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りオムツの使用は避けるよう努力している 時間を見計らってトイレに誘導している 一人ひとりの排泄習慣を見極めて排泄の自立に努め、本人の自信や誇りの保持につなげている	健康的な自立排泄快便に向け、野菜中心・乳製品摂取を意識している。入居者の様子・表情を把握し、それらの情報をもとにトイレへの声かけを実施している。そのような排泄への対応を行うことで、おむつを使用しない介護を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に日々の食生活の中で便秘予防に良いとされる、バナナ・プルーン・納豆など定期的に提供している。又、散歩や軽い運動を欠かさない それでも便秘の場合は、原因を確かめるよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の健康状態に添った入浴。また、誰と入りたいか・どの様に入りたいかなどの意向を聞き取り入浴を楽しみ且つ、清潔も保てるように努めている。又、入浴後の水分補給にも気配りをしている入浴は、週2回午前中に行っているが希望者にはシャワー浴、清拭、足浴など随時行っている	原則週2回、入浴を実施している。入浴時間が長すぎても脱水症状にも繋がることに注意しながら、個々がゆっくりとした入浴ができるよう心がけている。入浴が嫌いな方へは、身体を拭いたりすることで洗身保持を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣の把握に努め、夜の安眠のために昼寝なども長くなり過ぎないように配慮している 特に車椅子の方には、起きている時と横になっている時間等を配慮しながら、安眠できるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医の指導の下に服用して頂いている 投薬間違いの無いように服薬トレーを作成し、確実に服用出来るようにしている 場合によって錠剤を砕いたり・水に溶かすなど工夫している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の生活を通じ、一人ひとりの特技や趣味を發揮できるように努めている 俳句・川柳・歌など、お茶の時間に披露していただいている カレンダー制作・箱折りで生活に役立てるなどの支援している 自信や誇りにもなっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染拡大防止の為、社用車でドライブや広い公園での散歩、施設の庭や玄関先での外気浴、施設周囲の散歩程度の外出となっている	「ドライブに行きたい」等の要望があった場合には、近所の公園や神社周辺を外気浴も兼ねてドライブに出掛けることもある。ドライブ以外では、周辺を散歩している。個別に、希望の場所へ職員対応にて実施することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	避難訓練は2020.7.9. 2020.12.1.(防災設備会社の指導により行う) 2021.10.14(地震を想定) コロナ禍で地域の消防署の立ち入り検査は延期となっているが、防災設備会社の年2回の点検を実施すると共に職員は交代で避難訓練に参加している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員が出来る訳ではないが、出来る方には制限する事なく自由に行って頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常にホームの内外を清潔にしている 季節の花を室内に飾ったり、又、庭で育てたりして目でも楽しんでいただけるようにしている 強い陽ざしや大きな物音など避けるように配慮し、穏やかな空間作りに努めている	居間(和室)には、入居者各々が使いやすく、また座る場所を考え、ソファ・椅子・こたつ(テーブル)を配置している。レクリエーションで作成したちぎり絵・飾り物を装飾し、それらを季節に応じて変更して、室内にて季節を感じられるような工夫に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	洋・和室どちらの空間もあるので、各自の過ごしやすい場所で一人、又は気の合った者同士で楽しむ事ができるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた家具の持ち込みや大切にしているもののスペースを確保する事で、自分の今までの生活の延長上にいられるように配慮している 親や配偶者のお位牌を置いている方も数名いてお盆やお彼岸にはお花を用意したり、手作りのおはぎをお供えている	ベッド以外は持ち込み自由であり、従前使用していた物を持参してもらっている。配置も個人の自由であり、ADL(日常生活動作)の変化等により不都合が生じた場合には、本人と相談しながら模様替えを実施している。衣類や温度管理・清掃等は、担当職員が基本的に対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に安全に配慮し床には物を置かないようにしている 又、物の位置なども利用者が混乱しないよう無闇に動かさず定位置を決めている 更に利用者の身体機能に合わせ、危険と思われる角にはコーナークッションなどで対策している		